

(別添1参考)

「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成30年3月5日保医発0305第1号)の一部改正について  
(傍線の部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第1章 (略)</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第1部 (略)</p> <p>第2部 在宅医療</p> <p>第1節 (略)</p> <p>第2節 在宅療養指導管理料</p> <p>第1款 在宅療養指導管理料</p> <p>C100～C105-3 (略)</p> <p>C106 在宅自己導尿指導管理料</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p><u>(4) メニエール病又は遅発性内リンパ水腫の患者に対し非侵襲中耳加圧装置を用いた療養を実施する場合に、医師が患者又は患者の看護に当たる者に対して、当該療法の方法、注意点及び緊急時の措置等に関する指導を行い、当該患者の指導管理を行う際には当該点数を準用する。なお、この場合は上記(3)を適用しない。</u></p> <p><u>(5) メニエール病又は遅発性内リンパ水腫の患者に対し非侵襲中耳加圧装置を用いた指導管理を行うに当たっては、関連学会の定める適正使用指針に沿って実施した場合に限り算定する。なお、当該点数には指導管理に要する機器等に係る費用が含まれており、別に算定できない。</u></p>	<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第1章 (略)</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第1部 (略)</p> <p>第2部 在宅医療</p> <p>第1節 (略)</p> <p>第2節 在宅療養指導管理料</p> <p>第1款 在宅療養指導管理料</p> <p>C100～C105-3 (略)</p> <p>C106 在宅自己導尿指導管理料</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>

(6) メニエール病又は遅発性内リンパ水腫の患者に対し非侵襲中耳加圧装置を用いた指導管理を行うに当たって当該点数を準用する場合は、「C005 在宅患者訪問看護・指導料、C005-1-2 同一建物居住者訪問看護・指導料」の(4)、(25)及び「C119 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料」の(4)を適用しない。

C107～C119 (略)

第2款 (略)

第2節～第4節 (略)

第3部 検査

第1節 検体検査料

第1款 検体検査実施料

D000～D006 (略)

D006-2 造血器腫瘍遺伝子検査

(1)～(2) (略)

(3) BRCA1/2遺伝子検査は、区分番号「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査の所定点数2回分、区分番号「D006-4」遺伝学的検査「3」処理が極めて複雑なもの  
の所定点数2回分を合算した点数を準用して算定できる。

ア～ウ (略)

エ 本検査の実施に際し、区分番号「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査及び区分番号「D006-4」遺伝学的検査の点数を準用して算定する場合は「注」に定める施設基準の規定は適用しない。

D006-3～D027 (略)

第2款 (略)

第2節～第4節 (略)

第4部～第9部 (略)

第10部 手術料

(新設)

C107～C119 (略)

第2款 (略)

第2節～第4節 (略)

第3部 検査

第1節 検体検査料

第1款 検体検査実施料

D000～D006 (略)

D006-2 造血器腫瘍遺伝子検査

(1)～(2) (略)

(3) BRCA1/2遺伝子検査は、区分番号「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査の所定点数2回分、区分番号「D006-4」遺伝学的検査「3」処理が極めて複雑なもの  
の所定点数2回分を合算した点数を準用して算定できる。

ア～ウ (略)

(新設)

D006-3～D027 (略)

第2款 (略)

第2節～第4節 (略)

第4部～第9部 (略)

第10部 手術料

第1節 手術料

第1款～第8款 (略)

第9款 腹部

K 6 3 5～K 6 8 5

K 6 8 6 内視鏡的胆道拡張術

(1) 「注」の加算については、術後再建腸管を有する患者  
に対して実施した場合のみ算定できる。

(2) 経内視鏡的に経胃又は経十二指腸的に膵嚢胞との瘻孔  
造設を行った場合は、当該点数を準用して算定できる。  
なお、この場合は上記(1)を適用しない。

第10款～第13款 (略)

第2節～第3節 (略)

第11部～第13部 (略)

第3章 (略)

第1節 手術料

第1款～第8款 (略)

第9款 腹部

K 6 3 5～K 6 8 5

K 6 8 6 内視鏡的胆道拡張術

「注」の加算については、術後再建腸管を有する患者に  
対して実施した場合のみ算定できる。  
(新設)

第10款～第13款 (略)

第2節～第3節 (略)

第11部～第13部 (略)

第3章 (略)

(別添 2 参考)

「特定保険医療材料の材料価格算定に関する留意事項について」(平成30年 3 月 5 日保医発0305第10号)の一部改正について  
(傍線の部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>I 診療報酬の算定方法(平成20年厚生労働省告示第59号)(以下「算定方法告示」という。)別表第一医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>1～2 (略)</p> <p>3 在宅医療の部以外の部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)に係る取扱い</p> <p>001～108 (略)</p> <p>113, 114 植込式心臓ペースメーカー用リード、体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p><u>心臓電気生理学的検査機能付加型の「心房内・心室内全域型」を算定する場合は、区分番号「K 5 9 5」経皮的カテーテル心筋焼灼術の三次元カラーマッピング加算は算定できない。</u></p> <p>118～132 (略)</p> <p>133 血管内手術用カテーテル</p>	<p>I 診療報酬の算定方法(平成20年厚生労働省告示第59号)(以下「算定方法告示」という。)別表第一医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>1～2 (略)</p> <p>3 在宅医療の部以外の部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)に係る取扱い</p> <p>001～108 (略)</p> <p>113, 114 植込式心臓ペースメーカー用リード、体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p><u>ア 心臓電気生理学的検査機能付加型の「心房内・心室内全域型」を算定する場合は、区分番号「K 5 9 5」経皮的カテーテル心筋焼灼術の三次元カラーマッピング加算は算定できない。</u></p> <p><u>イ 心臓電気生理学的検査機能付加型の「心房内・心室内全域型」と、123 経皮的カテーテル心筋焼灼術用カテーテルの「熱アブレーション用・体外式ペースメーカー機能付き」又は「心房内・心室内全域型」と123 経皮的カテーテル心筋焼灼術用カテーテルの「熱アブレーション用・体外式ペースメーカー機能付き・特殊型」の両方を使用した場合は、主たるもののみ算定する。</u></p> <p>118～132 (略)</p> <p>133 血管内手術用カテーテル</p>

(1)～(2) (略)

(3) 血管内異物除去用カテーテル

ア～イ (略)

ウ 大血管用ローテーションシースの使用にあたっては、関連学会の定める当該材料の実施基準に準じて使用した場合に限り算定できる。

(4)～(11) (略)

135～200 (略)

201 膵臓用瘻孔形成補綴材留置システム

膵臓用瘻孔形成補綴材留置システムの使用にあたっては、関連学会の定める指針に従って使用した場合に限り、算定できる。

4～6 (略)

Ⅱ～Ⅳ (略)

(1)～(2) (略)

(3) 血管内異物除去用カテーテル

ア～イ (略)

(新設)

(4)～(11) (略)

135～200 (略)

(新設)

4～6 (略)

Ⅱ～Ⅳ (略)

(別添3参考)

「特定保険医療材料の定義について」(平成30年3月5日保医発0305第13号)の一部改正について

(傍線の部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>(別表)</p> <p>I (略)</p> <p>II 医科点数表の第2章第3部、第4部、第5部、第6部、第9部、第10部、第11部及び第12部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)及びその材料価格</p> <p>001～063 (略)</p> <p>064 脊椎固定用材料</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 機能区分の考え方 構造、使用部位により、脊椎ロッド(1区分)、脊椎プレート(2区分)、椎体フック(1区分)、脊椎スクリュー(3区分)、脊椎コネクター(1区分)、トランスバース固定器(1区分)、<u>椎体ステープル(1区分)及び骨充填用スペーサー(1区分)の合計11区分に区分する。</u></p> <p>(3) 機能区分の定義</p> <p>①～⑩ (略)</p> <p>⑪ <u>骨充填用スペーサー</u> <u>次のいずれにも該当すること。</u> ア <u>移植骨を充填するスペーサーであること。</u> イ <u>脊椎プレート・標準型と併用するものであること。</u></p> <p>065～113 (略)</p> <p>114 体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p>(1) 定義</p>	<p>(別表)</p> <p>I (略)</p> <p>II 医科点数表の第2章第3部、第4部、第5部、第6部、第9部、第10部、第11部及び第12部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)及びその材料価格</p> <p>001～063 (略)</p> <p>064 脊椎固定用材料</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 機能区分の考え方 構造、使用部位により、脊椎ロッド(1区分)、脊椎プレート(2区分)、椎体フック(1区分)、脊椎スクリュー(3区分)、脊椎コネクター(1区分)、トランスバース固定器(1区分)及び<u>椎体ステープル(1区分)の合計10区分に区分する。</u></p> <p>(3) 機能区分の定義</p> <p>①～⑩ (略)</p> <p>(新設)</p> <p>065～113 (略)</p> <p>114 体外式ペースメーカー用カテーテル電極</p> <p>(1) 定義</p>

次のいずれにも該当すること。

①～② (略)

③ 経皮的カテーテル心筋焼灼術用カテーテルに該当しないこと。

(2)～(3) (略)

115～119 (略)

120、121 生体弁・弁付きグラフト (生体弁)

(1)～(4) (略)

(5) 期限付改良加算の対象となる異種心膜弁(Ⅱ)定義

次のいずれにも該当すること。

ア 弁開閉部分がヒト以外の動物の心膜由来のものであること。

イ 石灰化を抑制するための組織加温処理が施されていること。

ウ 心膜にキャッピング処理及びグリセリン処理が施されていること。

122 (略)

123 経皮的カテーテル心筋焼灼術用カテーテル

(1) 定義

次のいずれにも該当すること。

①～② (略)

③ 体外式ペースメーカー用カテーテル電極に該当しないこと。

(2)～(3) (略)

124～132 (略)

133 血管内手術用カテーテル

(1) 血管内手術用カテーテルの機能区分の考え方

術式により、経皮的脳血管形成術用カテーテル (2 区分)、末梢血管用ステントセット (2 区分)、PTAバルーンカテーテル (8 区分)、下大静脈留置フィルターセット (2 区分)、冠動脈灌流用カテーテル (1 区分)、オクリュージョンカテーテル (2 区分)、血管内血栓異物除去用留置カテーテル (4 区分)、血管内異物除去

次のいずれにも該当すること。

①～② (略)

(新設)

(2)～(3) (略)

115～119 (略)

120、121 生体弁・弁付きグラフト (生体弁)

(1)～(4) (略)

(新設)

122 (略)

123 経皮的カテーテル心筋焼灼術用カテーテル

(1) 定義

次のいずれにも該当すること。

①～② (略)

(新設)

(2)～(3) (略)

124～132 (略)

133 血管内手術用カテーテル

(1) 血管内手術用カテーテルの機能区分の考え方

術式により、経皮的脳血管形成術用カテーテル (2 区分)、末梢血管用ステントセット (2 区分)、PTAバルーンカテーテル (8 区分)、下大静脈留置フィルターセット (2 区分)、冠動脈灌流用カテーテル (1 区分)、オクリュージョンカテーテル (2 区分)、血管内血栓異物除去用留置カテーテル (4 区分)、血管内異物除去

用カテーテル（5区分）、血栓除去用カテーテル（8区分）、塞栓用バルーン（2区分）、塞栓用コイル（7区分）、汎用型圧測定用プローブ（1区分）、循環機能評価用動脈カテーテル（1区分）、静脈弁カッター（3区分）、頸動脈用ステントセット（1区分）、狭窄部貫通用カテーテル（1区分）、下肢動脈狭窄部貫通用カテーテル（1区分）、血管塞栓用プラグ（1区分）、冠動脈カテーテル交換用カテーテル（1区分）、体温調節用カテーテル（2区分）、脳血管用ステントセット（1区分）及び脳動脈瘤治療用フローダイバーターシステム（1区分）の合計57区分に区分する。

(2)～(8) (略)

(9) 血管内異物除去用カテーテル

① (略)

② 機能区分の考え方

機能及び構造により、合計5区分に区分する。

③ 機能区分の定義

ア～エ (略)

オ 大血管用ローテーションシース

次のいずれにも該当すること

i 植込み型ペースメーカー又は除細動器のリードを経静脈的に除去する材料であること。

ii シースの遠位端の金属チップが操作により回転する構造であること。

iii ア～エまでに該当しないこと。

(10)～(23) (略)

134～153 (略)

154 脳動静脈奇形術前塞栓材

定義

次のいずれにも該当すること。

(1) (略)

(2) 脳動静脈奇形摘出術を予定している患者に対して、術前処置と

用カテーテル（4区分）、血栓除去用カテーテル（8区分）、塞栓用バルーン（2区分）、塞栓用コイル（7区分）、汎用型圧測定用プローブ（1区分）、循環機能評価用動脈カテーテル（1区分）、静脈弁カッター（3区分）、頸動脈用ステントセット（1区分）、狭窄部貫通用カテーテル（1区分）、下肢動脈狭窄部貫通用カテーテル（1区分）、血管塞栓用プラグ（1区分）、冠動脈カテーテル交換用カテーテル（1区分）、体温調節用カテーテル（2区分）、脳血管用ステントセット（1区分）及び脳動脈瘤治療用フローダイバーターシステム（1区分）の合計56区分に区分する。

(2)～(8) (略)

(9) 血管内異物除去用カテーテル

① (略)

② 機能区分の考え方

機能及び構造により、合計4区分に区分する。

③ 機能区分の定義

ア～エ (略)

(新設)

(10)～(23) (略)

134～153 (略)

154 脳動静脈奇形術前塞栓材

定義

次のいずれにも該当すること。

(1) (略)

(2) 脳動静脈奇形摘出術を予定している患者に対して、術前処置と



しての血管塞栓術を目的として使用する、もしくは経静脈的塞栓術等では十分に治療目的を達成することが困難な硬膜動静脈瘻の患者に対して、血管塞栓術を目的として使用する塞栓材であること。

155～200 (略)

201 膵臓用瘻孔形成補綴材留置システム

定義

次のいずれにも該当すること。

- (1) 薬事承認又は認証上、類別が「機械器具(51) 医療用嘴管及び体液誘導管」であって、一般的名称が「膵臓用瘻孔形成補綴材」であること。
- (2) 経胃又は経十二指腸的な内視鏡治療により、消化管壁と嚢胞壁の間に瘻孔を形成することを目的として使用する膵臓用瘻孔形成補綴材留置システム（デリバリーカテーテルを含む）であること。
- (3) デリバリーカテーテルについては、瘻孔形成部位を穿孔し、当該部位に補綴材を留置する機能を有していること。

Ⅲ～Ⅷ (略)

しての血管塞栓術を目的として使用する塞栓材であること。

155～200 (略)

(新設)

Ⅲ～Ⅷ (略)